

## 式 辞

阿尾の浦に吹く、「あゆ」の風にも、春の訪れが感じられる頃となりました。

本日、ここに、氷見市教育委員会北鹿渡文照様、育友会長伊藤昌則様をはじめ、ご来賓の皆様、そして保護者の皆様のご臨席を賜り、令和四年度、第四十九回卒業証書授与式を挙行できますことは、誠に喜ばしく、心から感謝申し上げます。

さて、百十六名の卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

皆さんの卒業に際し、私から「過去に感謝を 未来に希望を」という一言を贈ります。

既に過去となった北部中学校で過ごした三年間の日々は、どうでしたか。

思えば、皆さんが小学校卒業を間近にした三年前の三月、新型コロナウイルス感染症拡大により学校が休校、そして中学校入学後も休校が続くという、前代未聞の事態となりました。

友達と一緒にスポーツをすることや歌うことすら禁止されるなど、多くの活動が制限され、学校行事や部活動の大会が中止、削減という三年間を過ごしてきました。

そういう制限の中であって、皆さんはこの状況で何ができるのか、コロナ禍だからこそできることはないかと、学校行事や部活動のあり方について常に考え、そして、実際に行事が行われるときには、「大会が開催されることに感謝」「支えてくれた方に感謝」と、感謝の言葉をいつも述べていました。

仲間と共に歌い、汗を流して活動することは、決して当たり前にはできず、有り難きことであると実感したからこそ、「感謝」の言葉を述べていたのだと思います。

感謝を胸に、九月に行われた運動会では、各団が一致団結し、創意工夫ある力強い応援を創り上げました。

修学旅行では、友と過ごす素敵な笑顔が輝いていました。

中学校音楽会や合唱コンクールでは、心を合わせ、完成度の高い素晴らしいハーモニーを歌い上げました。

また、部活動においては、少ない時間で心を磨き身を鍛え、各大会やコンクールで活躍しました。

中でも卓球、ソフトテニス、体操競技個人において北信越大会出場、さらには、野球部と男女ハンドボール部が北信越大会を勝ち抜き、全国大会出場と氷見北部の名を全国に響かせました。

長野の地で、そして札幌の地で校歌が流れたあの景色は、今も鮮やかによみがえってきます。

一方で、このような素晴らしい思い出ばかりではなく、三年間の日々の中には、人知れず涙した、辛いことや悲しいこともあったと思います。

しかし、辛いことを乗り越えた分だけ、心は強くなっています。

悲しいことがあった分だけ、人に優しくなっています。

過去の出来事の一つ一つが、皆さんの今を作っています。

そう考えると、どんな過去の出来事にも感謝することができると思います。

これまでの感謝を財産に、これからは、それぞれの未来に向かって進みます。

皆さんが歩み出す社会は、A Iの進化やグローバル化が進み、予測困難な時代といわれています。

また、戦争や自然災害など、不安になることも世界各地で起きています。

しかし、未来が不安だ、と怯えてばかりでは、何も始まりません。

未来こそ自分たちが創る、それこそ生徒会テーマであったイノベーションを起こすという強い気持ち、希望をもって一步を踏み出してください。

「過去に感謝を、未来に希望を」

卒業生の皆さんが、未来に向かって力強く歩んでいくことを願っています。

さて、保護者の皆様、本日はお子様のご卒業、誠におめでとうございます。

立派に成長されたお子様の姿をご覧になり、喜びもひとしおのことと存じます。これからもお子様に寄り添い、一番の理解者として、ともに歩まれることを願っています。

また、これまで本校の教育活動にご理解とご協力を賜り、心から感謝申し上げます。

結びに、昨年夏の甲子園で優勝した仙台育英の須江監督が「青春は密だ」といわれました。

これまで「密」を避けながら、新型コロナを乗り越えてきた卒業生の皆さんが、

今後はマスクを外して、仲間とともに大いに語り合い、「密」な青春を謳歌し、

素晴らしい未来を築いていかれることを祈念し、式辞といたします。

令和五年三月十五日

氷見市立北部中学校 校長 櫻打佳浩